授業方法について独自に工夫していること　【教育科学系】
・資料や動画での映像なども多く活用し、見て理解しやすいように。
テキストの内容をすべて扱うことが時間的に無理であることから、学生にとって有意義と思われる箇所に限定して授業を行っている。また、映画の内容を耳からだけの英語で理解することは困難であると思われることから、英語字幕付きと日本語字幕付きで2回視聴させている。
すべての授業でアクティブ・ラーニング型を行っている。 対話型を重視し、一方的ではない課題をグループで解決している。 すべての授業資料や提出物等を、「まなびネット」を使用してやり取りしている。
・ある事例について、学生同士、ディスカッションする機会を作り、それを発表する。 ・実践活動を通して体験することにより、調査活動をしたり、仲間とコミュニケーションをとったり、仲間とつながりを感じたりなど、自分なりに実感することを大切にする。 ・DVD視聴より、現場の子どもたちの様子を知り、教師としての心持ち、子ども理解、指導に役立てていく。 など。
・最新の医療情報を収集し，常に新しい情報を取り入れた授業内容になるように工夫しました。 特に厚生労働統計協会が毎年８月末に発行している「国民衛生の動向」の統計資料等に基づき，最新の情報を学生に提示しつつ，さらに小児保健の領域に関する資料を配布して説明し，より小児保健に対する理解を深められるように配慮しました。 ・学生の気づきを互いの学びにするため，グループ討議の時間を設け，「なぜそう考えたのか」を発表する機会を頻回設定しました。
講義内容に対する視覚的な理解を補完するために、類似した内容を扱っているDVDを講義の直後に視聴している。授業内で実施する小レポート内でも、これにより講義内容の具体的な理解と視野の広がりが促進されるという感想が散見される。 また、保育者として必要とされる幼児理解・保護者理解・同僚理解能力を育成することを重視している。そのために不可欠な想像力を伸長させるため、また、価値の多様性についての実感的理解を促すために、事例検討の際には必ずグループ討議を実施し、様々な考え方を知る機会とすることにも重点を置いている。
時間内に仮説を考え、パソコンを持参させて、自分でデータ処理を行うことができるように配慮している。 レポートについて仮提出させ、ピア評価を取り入れている。最終的に一人ひとりのレポートを添削・返却して参考にさせている。
実例がわかるように，時間に余裕があればDVDや画像を組み込んだ授業になるよう心がけている。
・最近の学生は新聞を読まず、SNSのニュース中心に情報を得ているため、幅広い知識を付けるために新聞記事を活用する。 ・課題（最小限の情報）を与え、小人数でまず学生同士で話し合いをさせ、発表させ、それを踏まえた解説や講義を行う。 ・最新の各種データを資料として使用し、状況が分析できるように説明する。 ・自由に質問しやすい雰囲気を作る。 ・コメントシートに書かれた内容を、丁寧にフィードバックする。

・視聴覚教材を短時間利用している。 ・黒板をていねいに板書して，まとめている。
反転授業、アクティブラーニングの手法を主として行った。 毎週、テキスト1章分を各自読み（下線を引き、辞書を引きながら）、担当部分についてmindmapを作成する。 授業ではmindmapを発表し、グループ内で互いに評価する。 テキストの内容に関する確認問題を解き、1グループ1問の回答を黒板に書く。 その回答に対して、教員が補足・解説を行うという授業であった。
・幼児教育の具体的なイメージを持てるようにするために、DVDを活用した。 ・学生同士意見を交換し合う場を多くとり、考えが広がるようにした。
・保育現場で役に立つように、実践的な授業内容を心がけた ・幼児の表現について、具体的な事例とともに授業内容を関連づけるよう心がけた
幼児教育や保育の現場で活かすことができる内容を扱うように心掛けています。 本授業の中で、将来学生たちが出会う子どもたちにとっても楽しむことができる内容を扱うことによって、子どもたちのことを意識しながら学ぶことができるようにと思いながら授業を行っています。
今年度初めて開設した教科であったので、従来担当してきた科目を参考にしながら、試行錯誤をした状態にある。次年度は内容を精査し、実技に加えて理論的な学びや思考的な学びの場をもう少し増やしたい。 この科目は1年生なので、科目の専門的な内容以外に「全員の間で話すことに慣れる」ことも1つの目標である。従って、26名という多人数でありながら、一人一人が全員の前で2回ずつ保育者役を経験できる機会を設定し、最後3回目は一人ずつ「パネルシアター」を製作し演じるように工夫した。そして、絶えず各学生の良さをみんなの前で具体的に指摘し、自信を持てるようにするとともに、一人一人の良さが全員に伝播するように工夫した。
いずれの授業科目において、学生が主体となって授業に参加し、授業内容の理解を深めることができるようにしている。特に実習科目では、グループで協働して学び合うことによって、実践的な学びへとつなげるようにしている。
障害者に関わる法制度は複雑であり理解しにくい部分も多いため、具体的に障害者の生活がイメージでき、法制度がどのように生活に影響を与えているのかを理解できるよう、障害当事者にゲストスピーカーとしてお話ししていただいたり、映像資料を活用するなどして学生が障害者の生活を身近に感じられる工夫している。 また、資料は複雑な法制度を可能な限り理解しやすいよう工夫して作成している。
幼稚園教育要領、教科書を用いて、自分で学べるように指導する。 国立教育大学附属幼稚園の実践資料をネット上で示し、自分で学べるように指導する。
授業内にアクティブラーニングを取り入れ実体験による学びを得られるようにしている。
学生の主体的な発言を重視したグループワークショップを毎回取り入れてきた。 保育実践の中で使用可能な教材の紹介をできるだけ多く心掛けた。
話をよく聞きとること、授業ノートを仕上げることを求めたことです。

基本的にパワーポイントと教科書を参照しながらすすめているが、将来保育者を目指す学生たちなので、自分やクラスメイトと相談しながらまとめ、紙にわかりやすく示す、ということも大切にしている。 たとえば、園で発行する“おたより”を念頭において、ポスターにまとめる時も、手書きであることを重視し、内容と合わせて、イラスト、写真、レイアウトを工夫するように指導している。
講義の中で心の病気や心の障害について取り扱うが、それらをいかにわかり易く、想像できるように伝えられるかという点に重きを置いて講義を行った。具体的には以下のような点を工夫した。 ①多様な精神病理学的症状については、病態水準という切り口から整理し、映像を通して伝えるように努めた。 ②健康と思われる心の状態から、段々と不健康、不適応的になっていくプロセスを表現した映画を見てもらい、講義の中で詳細な説明を加えることによって「病んでいく心」について、じっくり考えることを重視した授業展開を考えた。 ③心の病気や不適応という心のあり様を捉える心理学的アセスメントについては、単に講義するというより、実際の心理検査の一部を体験してもらい、心のアセスメント（査定）について考えられるように進めた。
出席レポートを数回にわけて実施することで、学生が関心をもっている内容や知りたい情報を教員に質問できるような機会をもつように心がけ、その内容をもとにそれ以降の授業で還元できるようにしていた。
ワークを多く取り入れ、学生同士でシェアする時間を設けた。 毎回、授業感想シートを提出してもらい、質問等についてコメントをして返却することで、学生とのコミュニケーションをとった。
実践応用的な講義なので、自験例を基にした事例を多く提示し、さらにその事例を経験している中で実際に考えたことや感じたことなどを加えて、臨床現場のリアルな感じが伝わるように話した。 事例検討やチーム医療のグループワークでは、臨床実践に近い例を提示して、各個人が自分ならばどう考えるのかについて小グループに分けて自分自身の意見を話すように工夫した。また、各グループでの討議の内容を全体で共有する時間も設け、様々な意見を聞けるようにした。
当該科目は社会福祉士の資格試験における選択科目のひとつであり、①社会福祉サービスに関する相談援助活動と法との関わり、②相談援助活動において必要となる成年後見制度の仕組みと制度運用の実際、および、③社会的排除や虐待などの権利侵害を受けている人々や認知症等により日常生活上の支援が必要な人々に対する権利擁護活動の実際に関する基本的知識を身につけることを目標とするため、講義内容はかなり広範かつ大量である。そこで、テキストの記述を前提とした「講義メモ」を作成・配布し予習・復習を奨励している。
文部科学省やその他の調査機関の資料を自身の経験からの視点を加え、理解しやすい説明に注力している。また、パワーポイントのスクリーン資料と板書の併用で説明を深めている。
Active　debateを盛り込み，生徒参加型を意識しました。
身近な制度ではあるが，難しく考えられがちであるため，各回のテーマやねらいを明確にすることを意識している。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。　【教育科学系】
・中心としては、授業の内容をどの程度きちんと把握し、理解ができているか、講義期間中の小レポートや期末のまとめのレポート等の内容を吟味し評価している。
毎回授業の最後に行う小テストに基づいて評価した。
基本的にはグループ活動における成果物を基本としている。 またこれらグループ活動への参加の度合いや貢献度も評価している。 さらに他者の評価等も参考にしている。
発表態度、課題への取り組み、レポート提出 教育の基礎知識はもちろんだが、教師としての人間性、感性をできる限り捉えるようにした。
・小児保健に関する課題レポートを課し，その内容およびレポート発表，討議への参加姿勢等を総合的に評価しました。
授業内の小レポートでは、本時の内容の理解の程度を把握することを主眼としているが、さらに自分なりの視点や課題を見つけて考察しているものには高評価を付した。 その他、事例検討に際しての記載内容やグループディスカッションへの参加態度、出席率等を考慮した。
2名の教員で話し合い、レポートの内容だけでなく、受講態度についても重視した。グループ活動のため、よくも悪くも他のメンバーの態度に影響を受けることが多いと思う。
テスト6割をやや平易な記述問題，4割は卒業時までに知っておいてもらいたい標準的な問題とした。
・出席証明として毎回書かせるコメントシートの内容及び最終回の授業内テスト。 ・全体に出席状況および授業態度はよかったが、テストにはばらつきがあった。
②のややそう思うの率が多くなっている。 学生のニーズをこれからも大切にしたい。
テキストの読解、mindmap、確認問題の回答、確認問題の復習としての期末の確認テストによって総合的に評価した。
授業・幼児教育への理解度について以下の割合で評価した。 授業内提出物30%、授業への参加度30%、レポートの提出40%
・毎回の授業課題および期末課題を総合的に判断した ・学生は積極的に課題に取り組み、授業内容についても概ね理解できたと考える

授業の中では、制作体験を数多く取り入れるようにしていますが、ただ単にものを制作するだけではなく、そのものを制作しようと思ったきっかけや経緯、制作の流れ、制作の中で工夫した点などを、レポート用紙にまとめてもらっています。そのレポートでは、特に図やイラストを取り入れるように指示しています。授業の中で制作したものとレポートの両方から、成績評価を出しています。
結果として実技内容が主になったため、3種類の課題への取組状況をそれぞれ7段階程度で評価した上で、総合的に評価した。
授業の振り返りや課題のレポートや、授業への参加度などにより総合的に評価した。
毎回授業で2点から4点の小テスト、ミニレポートを提出（合計30点）最終回の授業でテストを実施（合計60点）その他、授業態度等（10点）としています。
授業態度３０％、小テスト、レポート７０％
試験および提出物の合計
授業への積極的な参加態度、レポート
理解しているかどうかです。基本的な用語や概念、重要論点を把握できているか、認識を深めているか等を基準としました。
実技発表、グループ発表、小テスト2回、課題、提出物、授業への参加度で評価を行った。 欠席によって多少評価に差が出たが、S～Bの範囲での成績評価となった。
レポートのテーマは授業で取り上げた内容から学生に自由に選択をしてもらい、レポートとして提出してもらっている。レポート評価を以下のような観点から行った。 ①15回の講義の中からどのような視点でレポートテーマを見つけ、レポートしているか。 ②レポート内容がどれくらい論理的で、わかりやすい文章表現ができているか。 ③自分なりの考察が述べられているか。 ④講義内容を中心としながら、文献を使っているか否か。
出席レポートを授業期間中に数回実施することで、期末の試験成績だけで評価することは控え、なるべく授業への参加態度など、授業期間中の態度も反映しながら最終的に成績評価を行った。
授業への参加度、出席状況、期末試験を総合的に評価した。
授業内で行った小レポートの提出率（出席）と、最終講義のレポートの質（講義内容を正確に理解できているのか、講義内容から発展して自分自身の考えを述べられているのか）を基に評価した。

授業内容の理解度を問う定期試験で評価した（100%）。ただし、欠席状況に応じて定期試験の成績から減点した。 定期試験の成績は全般的には良好であったが、一部に前述の「講義メモ」の復習が十分でなかったと思料されるケースが見られた。
授業態度及び意欲はもちろんですが、提出課題において、第1に授業内容の理解度、第2に出された課題に対して、どれだけ深くアプローチできているか、また、自分自身の意見を表現できているかを評価しました。
基本的な知識理解のほか，グループプレゼンテーションで評価してます。
〈社会保障論Ⅰ〉 まとめのテスト40%，毎回の授業での気づきやグループワークでの振り返りシートへの記入内容60% 〈社会保障論Ⅱ〉 まとめのレポート30%，各回の振り返りシート70% いずれも気づきや振り返りについては，根拠が記されていること，他者の意見や気づきにもふれられていることを重視した。

アンケート結果を受けて改善したいところ　【教育科学系】
・今回、特に、ということはないが、学生の反応を捉えながら、適宜、柔軟に工夫・対応を検討していきたい。
この授業に関しては否定的な回答がほとんどなかった。問6と問１１については数名の学生が③を選んでいるので、今後はこれらの点に注意したい。
「初等情報研究」の授業運営について、改善の余地があると考える。 本授業のみ反転授業を取り入れているが、やや試行錯誤の感があり、達成度などが少し低い。 このまま反転授業を継続するか、一般的なアクティブ・ラーニング型の方法で行うか、迷う。
・学生にとって、分かりやすい教材・教具を、さらに工夫していきたい。 ・学生同士で学習内容を深め合う機会を、より多く作れるように意識していきたい。 ・学生とのコミュニケーションをとる機会がなかなかもち辛かったので、学生との距離感が狭まるような関係性を作っていきたい。
・授業で新しい考え方や知識・技能が身についたは94.3%の学生が，学生どうしで授業内容を深めあったは91.5%の学生が「そう思う」と回答しており，現在の授業の進め方を継続しつつ，さらに課題の提示方法について創意工夫していきたいと考えます。
自ら課題意識をもって、さらに授業内容を深めたいと思えるような構成にしたい。
学生の自習時間が多く、教員の指示や説明がわかりやすいことは評価できる。ただ、授業の難易度が難しいとする学生が32.6%と多めだったため、次年度は課題内容について精査したい。
時間配分，効率のよい授業運営を心がけたい。
・福祉の授業内容の全体平均よりは高い項目が多かったが、もう少しその日の学習目標をはっきり伝えてもよいかもしれない。 ・この授業は2年担当したが、昨年の学生の意見を取り入れたので、より内容が充実したと思うが、一部で最新の資料が用意できなかったので、最新の資料を準備できるように心がけたい。
授業の難易度で改善点がある結果となっている。

自由記述欄に、①課題の量が多いこと（それゆえ自主学習のようだというコメントあり）、また、②グループから１人しか評価されないこと、③模範解答を示してほしいこと、などとあった。 ①については、課題に不慣れ、あるいは読解に時間が掛かる場合は、負担に感じたかもしれない。しかし、課題に費やした時間は１～２時間という者が最も多く（38.5%）、３時間以上も26.9%である。計画的に課題に取り組んでいればできない量ではない。ただし月曜の１限で、課題に取り組んでいなかった者が、その場で何とかしようとしてもできる量ではないことだけは申し添えておく。 ②グループから１人しか評価されないというのは、best mindmapをグループで選出した者しか私が確認しなかったことによるが、その評価はグループ内で互いに評価したものである。それ以外に私が誰かを選出したことはない。評価されないのは、グループのなかで選出されないことによる。 ③模範解答を示すと書き写して満足する学生が多い。不足している点、誤っている点は、毎回の確認問題の回答を全員個別に添削していた。意識改善が課題である。 こうした自由記述が現れるのは、私に信頼を持っていないことによるのだろう。「頑張った人が損をするシステムが辛かった」という記述もあった。頑張った人はそうしなかった人よりも多く、または深く学んだのであり、頑張らなかった人は、その分テキストの内容を身に付けることが難しかったであろう。自分の学びを他の人の学びに寄与することが教職の本質の一つである。そのことを伝えられなかったことは、ひとえに私の落ち度である（なおテキストの読解や確認問題、期末の確認テストでは、各自尽力した分の評価は得ているはずである）。ここにお詫びいたします。
・　他専攻の学生への幼児教育についての授業であるが、前期にすでにいくつかの講義を受けているので、ある程度の知識をもっていることを前提とした授業を考えていってもよかった。実際の事例を多く紹介し、一歩踏み込んだ専門的な内容も組み込んでいきたい。
・授業の難易度や内容量について適切だと感じる学生が殆どであったことは良かったと思う ・アクティブラーニングとして、学生がより自主的に学習するよう働きかけていきたい
問15の「この授業のための週当たりの学習時間」という点について、各自で学習する時間をもう少し増やすことができればと思います。
（2）に記載した通り、今年度に新規開設した科目だったので、個々の内容を盛り込み過ぎて、当初予定した範囲に至らなかった（不足部分は2年生で自身が担当する科目の中で、補充する）。この点を反省し、新年度は内容と進め方を精査して実施したい。
授業科目によっては、「学習目標が達成できた」が半数に満たないことから、学生の学習意欲を高め、その目標を達成し、有意義だと感じる授業内容を工夫したい。
授業の学習目標を明確に示すようにしたいと思います。また、資料等の工夫は今後も努力していきたいと思います。
まず、専攻科目全体の評価を見て、問１：90.1%、問２：68.8%、問３：57.2%、問４：72.7%、・・・が肯定（強くそう思う、ややそう思う）の結果を見て、専攻科目では、学生諸君がかなり授業を肯定的に受講していることが理解できた。おそらく、自分の勤務校ではこれほど高い値はでないと思う。 さらに、自分が担当した結果では、問１：35.7%、問２：31.5%、問３：25.8%、問４：28.6%、・・・が肯定と低調であった。言い訳になるが、正規分布を手本にすると、自分の担当した結果の方がそれに近い。ほぼ、満足している。
授業の中で学生が主体的に考えるような工夫を実施したい。
学生の考えを出す時間が多く取れるように心がけていく。来年度は退職年齢のため残念ながら実施できないが…。

多くの受講生が、新しい考え方や知識・技能が身についたと思ってくれたようです。 多くの受講生がよく取り組んでくれたと思います。現状を理解し将来の姿について構想する力を身につけることは、授業内で完結するものではありませんので、今後の様々な機会のなかで培っていってもらいたいと思います。 その導入として基礎となる土台づくりや端緒を開くことができたようですので、概論としての役目は果せたのかなと思っています。
授業内容においては、難しすぎる、易し過ぎるという評価もなく、ちょうどいいということであった。乳児保育とは、初めての科目のため、今後も学生の興味関心とあわせながら、個々の問題意識や知識、技能を獲得できる内容に努めていきたい。
「学生同士で授業内容を深めあった」という設問については、「どちらともいえない」、「あまりそう思わない」がいずれも16.7%、「全くそう思わない」が8.3%となっており、約4割の学生が学生同士で授業について深め合ったという実感を持てていないことがわかった。授業で取り扱うテーマごとに学生らに意見を求め、自分の考えを他者に伝えたり、他者の考え方や理解の仕方を知る時間を作ってきたつもりだったが、今後は1回あたりのグループディスカッションの時間を長く設定するなど、さらに工夫をしていきたい。
授業内で学生が予習・復習（振り返り）に役立つテーマなどを提示してみようと思う。
自主学習を促す工夫をしたい。
自分自身の臨床実践を話す時間が多くなってしまい、学生各個人が自分から主体的に調べたり考えたりする時間が少なかったため、そうした時間を設けられるようにしたい。
前述のように講義内容がかなり広範かつ大量であることから、講義で時間をかけて取り上げる部分と、詳細は受講者の自学自習にゆだねる部分とで、メリハリを付ける工夫をしたい。
新しい考え方、多様な考え方ができるようにするという点について、今後の授業の中で深めていけれるように、討議、グループワークの時間を増やす予定です。また、学生が調査し、考えをまとめるという形式でのレポート作成を促したいと考えている。その結果、自ら課題に取り組む姿勢を養いたい。
自由記述で頂いた”知識の引出し”に留意して，様々なトピックを心理学的に説明したいです。
週当たりの学習時間が少ない傾向がみられるため，予習復習のテーマを明確にすることや，次の授業回で学生とのやりとりを実施しながら前週の復習を行ってみたい。